

# 全学入学前教育プログラムについて

## ー 入学予定者プログラムの途中経過報告 ー

羽 矢 みずき\*

### 1 はじめに

平成 21 年度までは、「入学前教育」として年内推薦入試の入学予定者を対象に、全学で「通信添削」と「フォローアップ講座」を行っていた。アドミッションセンターが中心となり、「通信添削」を担当する四谷ゼミナールとリメディアル授業を担当する学生支援センターとの連携により、通信添削の提出・学習状況によって学生を抽出し「フォローアップ講座」を行うという内容であった。

「フォローアップ講座」対象者の入学後の履修状況を、平成 22 年度前期に実施した必修科目「自立と体験 1」の出席状況に窺うと、出席に問題がある学生は対象者の 5 分の 1 程度に抑えることができたという結果を得た。

平成 22 年度は、前年度のデータをもとにアドミッションセンターと明星教育センターが連携して、年内入試で合格した入学予定者を対象に「全学入学前教育プログラム」を計画し実施することを決定した。

「スタートアップ講座」を担当する明星教育センターは、入学予定者が①大学での学びの意識を高めること、②学力を維持する通信添削への意欲を持つこと、③大学生生活開始までの期間を有意義に過ごすことなど、以上この 3 点を重要な目標とした。

10 月から 2 月まで 6 回を予定している「入学前教育プログラム」は実施途中であるが、すでに終了した平成 22 年 10 月 24 日、11 月 28 日、12 月 19 日、12 月 25 日、12 月 26 日の 5 回について報告を行いたい。

「入学前教育プログラム」の日程と対象者

回数	日程	対象者
1	平成 22 年 10 月 24 日 (日)	AO 9 月 入試合格者
2	平成 22 年 11 月 28 日 (日)	AO10 月 入試合格者
3	平成 22 年 12 月 19 日 (日)	指定校推薦入試 (経済学部除く)
4	平成 22 年 12 月 25 日 (土)	公募制推薦、明星高校、卒業生子女
5	平成 22 年 12 月 26 日 (日)	指定校推薦入試 (経済学部)
6	平成 23 年 2 月 6 日 (日)	AO12 月 入試合格者

### 2 明星大学のサポート体制

#### (1) 4 つのサポート体制

明星大学における全学での「入学前教育プログラム」は、「プレテスト」「スタートアップ講座」「通信添削」「スクーリング」という 4 つのサポート体制を基本として構成されている。入学予定者にサポート体制についての説明と「入学前教育プログラム」を実施する目的を伝えた。

この 4 つのサポート体制において 1 日で行う「入学前教育プログラム」では、「プレテスト」と「スタートアップ講座」

---

\* 人文学部常勤教授 明星教育センター

の2つの体制までを体験することになる。1日のプログラムの目的と注意事項の記載の他に、グループワークの記録を書き込めるポートフォリオの形式で「入学前教育ガイドブック」を作成し、プログラムをスムーズに進められるように工夫した。

また、これまで入学予定者が「通信添削」を試験と誤解して取り組まない例が多かったため、「通信添削の説明」では参考書・辞書の使用や、スクーリングで教員の指導を受けることができると説明した。今後の反応に期待したい。

## (2) 学内他部署との連携

入学予定者への対応として、「プレテスト」の実施・試験監督はアドミッションセンターが中心になって行い、「スタートアップ講座」は明星教育センターで企画し実施した。体調不良を訴える入学予定者を想定して、保健室として指定した教室に1名の看護師が待機することを依頼した。

また「保護者プログラム」を同時に平行して実施したが、保護者は両親で来校する場合が多いため、説明会会場として収容人数の大きい教室の確保が必要となった。ここでは、教務企画課・学生サポートセンター・キャリアセンターの職員が、各部署における学生へのサポートの説明を行った。職員による説明だけではなく、勤労奨学生本人による学生生活の紹介は好評だった。

## 3 「入学前教育プログラム」の実施

「入学前教育プログラム」1日の予定

午前	10:00～10:15	「入学前教育プログラム」の説明	
	10:20～10:50	プレテスト（英語）	必修
	11:00～11:30	プレテスト（国語）	
	11:40～12:10	プレテスト（数学）	選択
午後	13:00～14:00	スタートアップ講座①	
	14:15～15:15	スタートアップ講座②	

### (1) プレテスト（10:20～12:10）

午前中の「プレテスト」は、受験番号で座席を指定して着席させた。「入学前教育ガイドブック」「名札用紙」「アンケート用紙」など、1日で使う資料を入れた封筒を事前に机に置く。10時から事前説明を開始し、「入学前教育ガイドブック」に沿って1日の予定と「プレテスト」「スタートアップ講座」の実施目標を教職員が説明する。

「プレテスト」は入学予定者が現在の学力を確認するためのものであり、「スタートアップ講座」はグループワークを通して、大学が様々な考え方の人と共に学ぶ場所だと理解するためのものであることを強調した。

「プレテスト」は午前10時20分から開始し、12時10分までの1時間50分で3教科の試験を実施した。英・国・数の3教科の2クラスと、英・国の2教科の1クラスを学部・学科別に編成したが、クラス数は回ごとに入学予定者の人数によって増減した。

午後の「スタートアップ講座」の準備として、「プレテスト」の最後の教科が終了する10分前に「スタートアップ講座①」の座席記号を記載したカードシールを出席者全員に配布する。これは「プレテスト」の3クラスを「スタートアップ講座①」で2クラスに編成し直し、グループワークを行う4人ひと組のグループを作るためである。

また「スタートアップ講座②」は、「大学の授業の体験」と「通信添削の説明」を2クラス合同で実施するため、学生スタッフの誘導で大教室への移動と座席の変更が必要となる。1日の中で座席が3回変わるため、入学予定者や学生スタッフへの指示が多くなり、3種類の座席表の作成やカードシールの作成・配布なども含めて煩瑣になること

は否めない。

## (2) スタートアップ講座① (13:00～14:00)

「スタートアップ講座①」の授業内容

時間	所要	内容	方法
13:00	15分	導入 講座のねらい	スタートアップ講座の目的とグループワークについて説明する。
13:15	15分	「自己紹介シート」	自己紹介の説明と学生スタッフによる実演。
13:30	15分	「インタビューゲーム」	「インタビューゲーム」 ゲームの説明と学生スタッフによる実演。
13:45	15分	振り返り 「自立と体験1」の紹介	「振り返り」で書いたことをグループで共有し発表する。

### ①導入

「入学前教育ガイドブック」を使って授業を進めていくことを説明し、「今日の予定」とプログラムを行う目的や注意事項を説明する。グループワークを導入した授業を行う意味と、自分と異なる様々な考えを持つ人と共に学ぶ大切さを認識するように説明した。

名札用紙に氏名を書いて互いに見せ合うように指示し、グループの4人で話し合うことを意識させることから始めた。

### ②「自己紹介シート」

互いの名前を確認させた後、「ガイドブック」の「自己紹介シート」を使い、4つの質問に対する各自の答えを考えさせた。学生スタッフによる実演で答え方の好例を示すと、在学生の話の内容に入学予定者が興味を持ち惹きつけられているのがよくわかり、教員の説明を抽象的に捉えてしまうより効果的だと実感した。

各自が「自己紹介シート」を書き終えたことを確認した後、「発表リレー」の方法で順に発言するように指示を出した。グループワークを初めて経験する入学予定者が多いため、発表の順番を示して開始させた方がスムーズに進行する。答えをひと言で終わらせるのではなく、その答えに理由も付け加えるように指示し、入学予定者が自分の情報を豊かに表現できることを期待した。

早く終了したグループには、手を挙げて教員に終了の合図を出すように指示し、新たな質問を板書して考えさせた。「自己紹介」が終了する頃になると、話が弾んでいるグループと話すことに困難が生じているグループが明確になってくるので、グループワークでは学生スタッフにサポートするように指示した。

### ③「インタビューゲーム」

A3用紙に12の質問を書いた「インタビューゲーム」のシートをグループに1枚配布し、グループ全員で1枚の用紙を見ながらゲームを行うように説明する。最初の人質問を1つ選んで隣の人に質問し、隣の人はその質問に答える。次に答えた人が質問者になって、さらに隣の人に質問をする。このようにグループ全員が質問者になり回答者にもなるというこのゲームは、活発な発言を促しグループワークを活性化させることが期待できる。ここでも答えをひと言で終わらせるのではなく、答えの理由も付け加えるように指示し、会話が広がる効果を目的とした。

ゲームの説明も学生スタッフによる実演で行い、答えにくい質問があった場合は「パス」してもよいなどのルールをわかりやすく伝えた。学生スタッフのユーモア溢れるやりとりは入学予定者を笑わせ、教室は徐々に和やかな雰囲気

気に変化していった。入学予定者の緊張がほぐれると会話が活発になり、ゲームを進行させるのがスムーズになってくる。終了の合図まで続けてよいという指示を出したため、グループ内での会話が弾む例が多かった。

#### ④「振り返り」

最後に「スタートアップ講座①」に対する感想や考えを「振り返り」として書かせ、再びグループ内で発表し意見を交流させてまとめとした。また、新年度の前期に必修科目として履修する「自立と体験1」の授業風景の写真を提示しながら授業内容を説明したところ、入学予定者は興味を持ち熱心に聞いていた。

### (3) スタートアップ講座② (14:15～15:15)

「スタートアップ講座②」の授業内容

時間	所要	内容	方法
14:15	25分	大学の授業の体験	授業を聴いてノートをとるように指示する。 大学の授業には基礎学力が必要であることを説明する。
14:40	20分	「通信添削」の説明	通信添削の取り組み方の説明と、添削担当の教員を紹介する。
15:00	15分	振り返り	アンケート実施 講座を受けて一番印象に残ったことについてグループで共有させる。

#### ①大学の授業の体験

大学の授業は板書中心ではなく、また「聞く」ではなく「聴く」という意識を持って授業に臨む必要があるという説明から入った。配布した資料を参考に授業を聴きながら、「ガイドブック」のメモ欄にどれだけの情報をノートにとることができるかという課題を与えた。ノートは自分で作るものだという認識を伝え、大学の授業の形態を体験させることが目的である。

また大学の授業を理解するには、英語・国語・数学の基本的な知識が必要だと実感させる質問を出し、「通信添削」への意欲的な取り組みに繋がるようにした。しかし短時間の授業の中で、3教科の基本的な知識を問う難しさを感じた。

#### ②「通信添削」の説明

「プレテスト」と「通信添削」の採点を担当している四谷ゼミナールの教員によって、英語・国語・数学の問題を例にとり説明が行われた。「通信添削」は試験ではないため、参考書・辞書を使って調べることも可能であり、スクリーンリングを利用して教員の指導を受けながら問題を解くこともできるなどの内容である。現在、この説明を行ったことで「通信添削」に取り組む入学予定者が昨年より増加し、昨年まで多かった大学生活への不安を訴える声も減少しているという結果が得られた。

#### ③振り返り

「振り返り」の時間が十分に取れない場合でも、今日1日の感想をひと言で表現させてグループで話し合い共有することを指示した。最後に授業について4つの質問を書いた授業アンケートを実施した。

毎回の授業終了後には、笑顔で連絡先を交換するなど、別れを惜しむグループの姿が見られ、グループワークを導入した授業や最後の「振り返り」で発言させることの重要性を実感している。

## 4 学生スタッフとの連携

在学生で構成する学生スタッフの中で、「プレテスト」の試験監督の補助や座席への誘導、「スタートアップ講座」でグループワークのサポートをする8～9人のスタッフをAスタッフとし、駅から試験会場の校舎までの誘導や「保護者プログラム」の補助をする10～15人のスタッフをBスタッフとして仕事を分担した。

全員に仕事の分担がわかる1日のスケジュール表を配布し、それに従って行動するように事前研修で指示しておく。学生スタッフは赤いTシャツや赤いジャンパーを着用し、入学予定者に学生スタッフであることがわかるように工夫した。

学生スタッフには事前研修を行い、欠席者には個別に行った。入学予定者の緊張を解くように笑顔で話しかけることを伝え、「自己紹介」と「インタビューゲーム」に取り組んでもらい、スタッフの間で事前に打ち合わせておくように促した。

Aスタッフのメンバーは、平成22年度前期に実施した「自立と体験1」のSA／TAの経験者であるため、「スタートアップ講座」の学生スタッフによる実演や資料配付の方法などは、細かい指示を出さずに彼らの工夫や考えに任せた。伸び伸びとした彼らの態度は、緊張している入学予定者を和ませる雰囲気を与えた。

## 5 「入学前教育プログラム」入学予定者の参加状況

以下の表に見るように、5回の「入学前教育プログラム」の出席率の平均は約80%になり、入学予定者にとって大学生活への関心と期待が大きいことが読みとれる。

5回の「入学前教育プログラム」の出席率

日程	対象者	当日出席者	参加率
10月24日（日）	205名	166名	81.0%
11月28日（日）	162名	126名	77.8%
12月19日（日）	408名	336名	82.4%
12月25日（土）	109名	87名	79.8%
12月26日（日）	177名	143名	80.8%
小計	1061名	858名	80.36%

## 6 入学予定者アンケートの状況

授業アンケートは、12月19日、12月25日、12月26日の受講者に対して3回行い、以下のような結果を得た。

アンケート3回分（12/19、12/25、12/26）の結果（出席者566名を対象）

Q1 プレテスト			
1 やさしかった	2 むずかしかった	3 自分の学力を確認できた	合計
34名	111名	248名	393名

Q2 グループワーク					
よかった 5	4	3	2	よくなかった 1	合計
233名	114名	37名	5名	3名	392名

Q3 大学授業体験					
よかった 5	4	3	2	よくなかった 1	合計
134 名	148 名	100 名	6 名	4 名	392 名

Q4 通信添削					
よくわかった 5	4	3	2	わからなかった 1	合計
186 名	132 名	65 名	3 名	5 名	391 名

質問は Q1「プレテスト」は3つの選択肢から回答を選び、Q2「グループワーク」、Q3「大学の授業の体験」、Q4「通信添削の説明」については5段階で回答する形式にした。

3回のアンケートの傾向を見ると、Q1「プレテスト」は「自分の学力を確認できた」が最も多く、Q2「グループワーク」は「よかった」が半数以上になり予想通りの結果を得た。Q3「大学の授業の体験」は「よかった」という答えが多かったが、内容が難解になりすぎないように今後は改善していきたい。Q4「通信添削の説明」は「よくわかった」が半数近くを占めた。

また、記述式の感想では「初対面の人と楽しく話しができた」や「入学前に知り合いを作ることができてよかった」「リメディアルを利用してもよいと聞いて心強い」などの前向きな意見が多く見られた。これらの回答から大学が意図した学習意欲の維持、入学までの不安の解消という「入学前教育プログラム」の目的を達成できたと捉えることができる。

## 7 今後の展望

今年度の「入学前教育プログラム」は、前年度までの「入学前教育」をもとに新たに構成してスタートした。回を重ねるごとに教職員と学生スタッフとの連携もスムーズになり、入学予定者に「入学前教育プログラム」の意義を実感し理解してもらえたのではないかと考えている。

今回は12月19日が400名以上の出席者になったため、「プレテスト」は2つの大教室を使用し、「スタートアップ講座①」は5クラスに編成し、「スタートアップ講座②」は2クラスに編成して行った。人数の多さから移動時の混乱などを予想していたが、学生スタッフの誘導により大きな混乱は見られなかった。

12月の「入学前教育プログラム」は3日間に分けて行ったが、教職員や学生スタッフの負担を軽減するために、来年度は約500～600名（今年度の人数）の入学予定者を対象に、12月の「入学前教育プログラム」を1日あるいは2日で実施することが可能であるのかを検討していきたい。